



社団法人

海外と文化を交流する会

(社) 海外と文化を交流する会会報

2003年6月発行(3月1回発行)

第19号

”知と心”の繋がりに文化の原点を求めて

日本を理解し日本で学ぶ留学生への支援 貧しい国々での医療活動を支援 各国大使館との協力などによる文化講演会の主催

事務局 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-27-6 パイナル内 TEL&FAX 03-3370-7654

<http://www.kaigai-bunka.org> e-mail:jimukyoku@kaigai-bunka.org

巻頭詩

チョウチョウ

まど・みちお(詩人・児童文学者)

まど・みちお：明治42年山口県生まれ。台北工業卒。国際的な評価も高く、「アンデルセン賞」その他数多くの賞を受賞。著書に「ぞうさん」(ぞうさん ぞうさん お鼻が長いのね.....)や、「まど・みちお詩集」「宇宙のうた」ほか多数。動物に関する詩20編は美智子皇后が英訳するなど、話題になりました。掲載の詩は、作者の快諾を得て転載しています。

げんきな タンポポ

はじめは タネが
とんできたんだろうな まいとし
ものそばにさく げんきなタンポポ
そうぼうの たれさがってる
あの セイヨウタンポポ

あんなチビでも とおくないせんぞが
うみやまこえて はるばる
せいようから やってきたんだろう
たったいま まほうであらわれたか
とおもえる まぶしいはなだが

いっちょうまえに なまいき
いってるみたいで かわいい
- ボクらのちきゅうって すばらしいな
ぜんぜんちがってて まるきり



おなじだよな いきてるみんなは

まど・みちお詩集「でんでんむしの八ガキ」理論社より カット/松岡裕子

創立35周年を迎えて

海外と文化を交流する会、35周年を祝う会を終えて

室井鐵衛 (社)海外と文化を交流する会会長

5月24日、霞ヶ関三井クラブの落ちついた雰囲気の中でのお祝いの会は、実にさわやかに、とどこおりなく、そして温かい心の通う記念の集まりであったと思います。そこには会員の方々の本当に心からの協力と、参加、そしてそれとともに素晴らしい数々の催しと、それを周到な心くばりで支えて下さった三井クラブの皆さんのサービス、これらが一つに?ってこの素晴らしいお祝いの集まりができたのだと思いました。

今、日本は本当に難しい状況に置かれています。どうなるかと思いますが、こうなることは判っていたことなので残念なことです。こうした日本の置かれた状況の中で文化について理解し、それに基く何等かの貢献を志すこの会が、どんな記念の会を催すものと案じておりましたが、それは心の迷いでした。日本には素晴らしい人々がいることを知りました。

ご祝辞の中の意味深い言葉、日本文化への周到な解釈、そして古典の芸術の表現の回帰、それに加えて、若い人達のさわやかな行動表現、そしてまた豊かな美味、これ等のことが目の前で実現したのでした。おそらく天の上で、松岡朝様が微笑んでいられるのではないのでしょうか。

文化とは、人間の精神的創造活動の表現だといわれていますが、この会がこれからさらにこの人間の精神活動のあり方、行動、そして文化への表現をいかに実現できるか、それは知性と感性と理性の結晶としていかに文化に形づけるかということになるのではないのでしょうか。そして若い人達がこれに参加し、次の世代へよき変化としてつなげていってくださることを願うものです。

感謝のことば

松岡裕子(社)海外と文化を交流する会専務理事

当会の小使い役をして24年がたちます。その間、多くのイベントの裏方を務めました。

しかし、今回の祝会はあと味が爽やかで疲れ知らずというイベントでした。コンサートなども、素人の手造りですから、どうしても失態があったり、反省を強いられたりと「追い討ち」が待っていて、気の弱い裏方は疲れもドツと出て回復に手間どったりします。それなのに、それなのに、今回は、恵みの雨もたくさん降って、感謝一色の記念祝会となりました。

「与えることで人生をつくる」と言ったのはウィンストン・チャーチル卿ですが、正にこのお心をお持ちの会員、会友のご協力が、形となって表れたこの度の祝会でした。

世界の文化交流の価値は心の豊かさから……

ジョージ・W・ギッシュ (社) 海外と文化を交流する会常務理事

「海外と文化を交流する会の創立 35 周年を祝う会」に参加して考えさせられたことの一つは、私たちが目指している文化交流の価値はどこにあるかということです。会の通常活動に関わっていない方々が、大勢お祝いの席に加わって下さり、嬉しく思いました。そして、沢山励ましの言葉を述べて貰い、感謝の気持ちでいっぱいとなりました。そして、その「アフタヌーン・ティー・パーティ」の会場の凝った雰囲気や美味しい料理や、素晴らしい和と洋の楽器による生演奏や、素敵な景品袋まで用意されたすべての事柄から受けた印象は、ある人にとってはこの「交流する会」が非常に rich な会に見えたことでしょう。

確かにこの会は rich な会です。しかし、その豊かさは表面的な贅沢さから来る物質的な rich さではなく、会と関わっているすべての方々の心の豊かさから来る価値ある余裕です。みんなが自分の時間や才能などを惜しまず（場合によっては犠牲を払っても）喜んで力を合わせて、人と人の交流の場を準備してくれたことです。この姿勢こそが、世界の文化交流の価値の秘訣です。そして、みんなの心の豊かさが「祝おう会」の rich さに反映されました。

この度の「35 周年を祝う会」を通して、私たちが目指している文化交流の本当の価値は、一人ひとりの心の豊かさからくるものであることを再確認出来ました。その会場に入って、すぐ留学生たちの笑顔で迎えられて思ったことは、この会の素晴らしさは、どんな違いがあっても、それぞれを分かち合うことによって、みんなの心がもっと豊かになるところにあると感じたことです。これからも、もっと大勢の人がこういう世界の文化交流の場に加わることが出来ますように願っています。

会員からの感想 35 周年祝会に参加して

伊藤栄里子

「先ず、会を継続してお世話下さっている皆様様に、深く感謝してお礼申し上げます。会場では日本らしくお抹茶でお迎え下さり、音楽を聴きながら開会を待ちました。室井先生のお話は勿論、ご来賓の方々のユニークなご挨拶は、ご専門以外の幅広いご活躍の一端が見え、とても勉強になりました。会が支援している留学生の方達のご参加もあり、良かったです。35 周年祝会ということで、思い切って伺い本当に良かったと思っています。今後ともよろしくお願い致します」

中川史紀子

「35 周年を祝う会 実に“祝う会”にふさわしく、お茶席が設けられたこともあり着物姿も多く、華やいだ雰囲気の中、来賓の方々やギッシュ先生のお話から、知的なものも得るという実に内容の濃いパーティになりました。また、「残狼」の演奏による和・洋楽器の音の交わりのごとく、文字通り「文化を交流する会」そのものだったように思いました。ローストビーフなどの料理もおいしかったです」

下村とし子

「お心のコもった祝会のおもてなしに先ず驚きました。一般の記念行事の様な堅苦しさがなく、雅なムードが全体に流れ、ご苦労くださったスタッフのお人柄がそのまま反映している心地良さでありました。お料理も最高でした。同席の友人等の食べることと云ったら……（勿論私も……）。ギッシュ教授のお話最高！ 感謝と喜びと共に帰りました」

兩貝匡哲（海外と文化を交流する会 web サイト作成担当、青山学院大学理工学研究科経営工学専攻博士前期課程 2 年天坂研究室所属）

「会のことは頂いた資料やお話でしか知らずにホームページ作成をしていました。先日の 35 周年記念パーティに参加してこの会の規模、参加されている方々の会に対しての思いを知り、ようやく会の実態を理解すると同時に、とても有意義な会に参加できたことを感謝しています。私は当日入会届を出しました。おそらく一番フレッシュな会員だと思いますが、今私がこの会に貢献できることは web サイト作成を通じて多くの方にこの会を知ってもらい、参加してもらうことだと感じております。今後ともよろしくお願いします」

お茶席からの感想

当日の立礼亭主・山縣宗絹さんのお弟子さんからの感想です。

柴田実穂（会友）

「お茶席のお手伝いをしながらパーティーを楽しませて頂きました。海外の方にも皆で声を掛け合い、楽しい時間を過ごしてもらおうといいですね」

中村芙佐子（会友）

「狭いスペースに雅なしつらえのお茶席、感動いたしました。留学生もお茶席は初めてとこのことで、日本の文化を語り合い楽しいひとときでした。“残狼”の演奏はとても力強く軽快で楽しめました。外国人の琵琶演奏と日本の古い文化を再認識できて収穫でした。皆様方のお骨折りが生きた記念すべき会でした」

高橋祥子（会友）

「音楽が大変素晴らしく、音楽会を是非企画していただきたいほど、琴、尺八、スパニッシュギターもみんな素敵でした」

留学生たちの感想

馬 潔（東洋大学 観光学科 2 年）

「先日は『海外と文化を交流する会』の創立 35 周年記念のお祝いにお招きいただき、ありがとうございました。いろいろにご馳走になり、お茶をいただき、先生方の話を聞かせていただき、すごく楽しかったです。『世界中の文化がつながっています』 ジョージ・W・ギッシュ先生のこの話が今でも私の脳の中に残っています。ギッシュ先生が薩摩琵琶の話をはじめ、日本文化、中国文化と欧米文化の間に断ち切ろうとしても切れないほど強いつながりがあると言いました。言語や伝統や習慣などが違う国のさまざまな人々が各自の考えを持ち、暮らしているけれども人間としてやっぱり共通点を持っているのではないかと思います」

丁顔冰（ディン・イェン・ピィン 東洋大学国際地域学部国際観光学科 1 年）

「先日、『海外と文化を交流する会』の創立 35 周年のパーティーに参加させていただいて、本当にありがとうございました。在日留学生として、こういうようなチャンスを得られるのは、本当に嬉しかったです。

あの日、懇親会で、私と『海外と文化を交流する会』の会員たちが日本の文化と中国の文

化についていろいろな話をして、日中間の文化の相違への理解にたいして、すごく役に立ちました。、だから、こういう交流会の参加をできて、非常に有意義だと思います。今後 また そういうチャンスがあれば、ぜひ参加させていただきたいと思います」

会からの報告&お知らせ&お願い

総会開催、予算決算など決まる

平成 15 年 5 月 15 日(木)、東京・銀座の銀座教会集会室で、社団法人海外と文化を交流する会の第 34 回(平成 15 年度)通常総会が開かれました。議決については、以下のとおり。

第 1 号議案 平成 14 年度事業報告、平成 14 年度収支決算報告承認の件

1. 国際交流事業 (定款 4 条 2 項による)
1976 年にオーストラリアに寄贈した日本画 25 点の再活用の方法を探したが、さまざまな困難な状況があり、実現可能な方法を見つけるには至らなかった。
2. 竹中真ジャズピアノ チャリティーコンサート (定款 4 条 6 項による)
6 月 21 日、竹中真教授によるチャリティーコンサートも 7 回を重ねるに至った。会員、協力者に当会の活動状況を報告しご理解をいただく貴重な場となっていると共に、宮崎医師、在日留学生支援、その他の事業費の一助とすることができた。
3. 青盛のぼる・今井奈緒子・西山昌子とクワルテットの演奏会 (定款 4 条 6 項による)
11 月 26 日、昨年に引続きソプラノの青盛のぼる氏、パイプオルガンの今井奈緒子氏に加え、西山昌子氏とクワルテットによるチャリティーコンサートを行い、会員の親睦を図ると共に、各事業費の一助とすることができた。
4. 在日留学生への奨励金による支援 (定款 4 条 6 項による)
昨年に引続き中国(モンゴル)よりの留学生、ポインドグルン金花(多様性科学)を支援するのに加え、新たに林鵬峰(中国・商業)、馬潔(中国・国際観光学)の 2 名の留学生を支援し、交流することとなった。
5. 宮崎亮医師支援 (定款 4 条 6 項による)
先年度同様、宮崎亮医師の活動を支援した。
6. 会報の発行 (定款 4 条 6 項による)
7. “つどい” (定款 4 条 2 項による)
つどい 【日本文化再発見シリーズ】
企画委員会において検討を重ねたが、新しい企画の提案が無く、本年度は実施できなかった。
つどい 【外国文化を知る - フォーラム形式による】
昨年度で一応の成果を得たので、今年度の実施は見送った。
つどい 【21 世紀を考える】
11 月 1 日、佐藤純一氏(元東京大学工学部客員教授)を講師に「幼児の感性の

中に育まれるべき勇気と正義」と題して行われた。出席者 22 名
つどい 【留学生とのつどい】

3 月 8 日、「留学生と語ろうよ」と題して、留学生 8 名を含み 33 名の参加を得て行われた。ひな祭りの時期ではあり、閑静な個人の住宅で、お茶室も拝見し、優雅で豊かな交流の場となった。

8 . 創立 35 周年記念事業 (定款 4 条 6 項による)

来年度に創立 35 周年を迎えるに当たり、記念事業の内容と準備を行った。

2003 年 5 月 24 日 (土) 霞ヶ関三井クラブにおいて祝会を行う (ティーパーティ -)

記念事業の 1 環として視覚障害者施設 (全国に 73 ある) に視覚障害者用センサーのついたわ投げ 1 式を寄贈する。

在日留学生より論文を募集し、賞金を贈呈する。詳細は検討中。

9 . 東京ハルモニア室内オーケストラ支援 (定款 4 条 6 項による)

10 . 日本テレマン協会定期演奏会協賛 (定款 4 条 6 項による)

第 2 号議案 平成 15 年度事業計画、平成 15 年度予算の承認の件

平成 15 年度事業計画書 自 平成 15 年 4 月 1 日 ~ 至 平成 16 年 3 月 31 日

1 . “ つどい ” (定款 4 条 2 項による)

(a) “ つどい ” 【 21 世紀を語ろうよ 】

昨年度に続き、これからの日本の進むべき道を探ることを目的とする。

(b) “ つどい ” 【 留学生との交流 】

会員の希望にこたえ、当会が支援している留学生を中心に交流の機会を持ち、相互理解を深める。

(c) “ つどい ” は会員からの新たな提案を待つ。

2 . 創立 35 周年記念事業 (定款 4 条 6 項による)

(a) 創立 35 周年を祝う会を開催する (5 月 24 日)

(b) 記念事業の実行

海外からの留学生より論文を募集し、懸賞金を授与する。

論文のテーマ「地球村で生き残るために、これからの日本に期待すること」

最終審査員として日野原重明氏 (聖路加国際病院名誉院長)、松谷孝征氏 (手塚プロダクション社長)、轡田隆史氏 (元朝日新聞論説委員) を委嘱。

視覚障害者スポーツ遊具 (センサー付き輪投げ) の寄贈。

3 . 在日留学生への支援奨励金 (定款 4 条 6 項による)

昨年に引続き 3 名以上の留学生に奨励金を支給する。

4 . 宮崎亮医師支援 (定款 4 条 6 項による)

引続き宮崎医師の活動を支援する。当会では「文化」を芸術、教育、健康がバランスよく組み合わさったものと理解している。従って宮崎医師を支援することが厚生省関連の事業であるとはみなしていない。

5 . 会報の発行 (定款 4 条 6 項による)

年 4 回会報の発行を行う。

6 . 国際交流事業 (定款 4 条 2 項による)

引続き 1976 年にオーストラリアに寄贈した日本画巨匠による 25 点の作品の再活用の道を探っていく。

7. 篠笛によるチャリティーコンサートの開催（定款 4 条 6 項による）

鯉沼廣行、坂本真理両氏による篠笛のコンサートを行うことにより、日本文化の再発見、会の活動の報告と PR の機会とすると同時に、事業資金の一助とする。（11 月 22 日）

8. 東京ハルモニア室内オーケストラ支援（定款 4 条 6 項による）

9. 日本テレマン協会支援（定款 4 条 6 項による）

第 3 号議案 理事改選の件

全理事 14 名 室井鐵衛、松岡裕子、ジョージ・ギッシュ、大谷俊介、伊藤英子、飯忍、鮫島宗明、角谷多美子、中川史紀子、中野真逸郎、松岡恒太郎、松田洋子、三井富美子、山田悦弘 の任期満了に伴い、全員の再選が承認され、各位もこれを承諾した。

奨励留学生をご推薦ください

「海外と文化を交流する会」の活動の一つとして、日本を理解し日本で学ぶ留学生への支援があります。会員の皆様からの紹介と推薦を受けて、選考いたします。新たに支援したい留学生を推薦なさる方は、事務局まで FAX で用紙などご請求くださいますようお願い申し上げます。応募締め切りは 10 月末日。 FAX 03-3461-5061 担当 角谷

海外留学生から懸賞作文募集

（社）海外と文化を交流する会創立 35 周年を記念してのプロジェクトのひとつに、海外からの留学生より懸賞作文（日本語で 4000 字でいど。テーマは「地球村で生き残るために日本に期待すること」）を募集する。当選者には金賞 1 名 30 万円、銀賞 7 名各 10 万円が贈られる。締め切りは 9 月末日。詳細、応募の方法などは <http://www.kaigai-bunka.org> で検索のこと。なお、応募も e-mail になる。

メロディー輪投げへのお礼が続々……

（社）海外と文化を交流する会創立 35 周年を記念してのプロジェクトのもうひとつは、東京都を代表にして日本全国 70 校におよぶ視覚障害施設（盲学校）へ、リングスロウという音がでる輪投げを 100 台寄贈したこと。視覚障害者には音がないと、判断がしにくい。そのため開発されたスポーツ器具がそれだ。

35 周年を祝う会席上で発表・贈呈したが、それらはただちに各盲学校へ配布された。そして各学校長から、会への礼状が続々と送られてきている。これも皆さまのおかげです。

支援・寄付へのお礼

35 周年でご寄付をいただきました。ありがとうございました。（敬称略・順不同）

伊藤英子、山縣勝・絹子、山田百合子、花野真佐江、香山磐根 ほか

ホームページ開設

このたび、ホームページを開設しました。どうぞご覧ください。

<http://www.kaigai-bunka.org>

新入会員紹介

佐藤純一さん（国際メタテクノロジー研究所所長・元東京大学客員教授・工学博士）

「“継続は力”なり。室井先生のもと、皆で力を合わせたく存じます」

兩貝匡哲さん……（35周年記念の会感想を参照）

海外と文化を交流する会の催し

つどい

- ・ **21世紀を考える**……この混沌とした時代に、人間の本质を改めて考えようという企画。会長の室井鐵衛氏を中心になって、20人内外で一種のゼミのように、語り合う。

日時：2003年7月17日（木） pm6:00～8:00

場所：東京・銀座「銀座教会」内集会室

会費：1000円（弁当代ほか）

問い合わせ&申し込み：室井鐵衛（TEL03-3311-7259；FAX03-3311-7440）まで。なお満員の場合もあるので、返信電話あるいはFAX番号を記入のこと。

次々回は10月16日。

- ・ **留学生とのつどい**……海外からの留学生と、楽しく語らいながら文化の交流をする。前回は「ひな祭り」を楽しんだ。次は未定。

・ **日本文化再発見**……海外との交流の基本に、日本の文化を再確認し、できれば海外の友人たちに紹介できるようにしたいと考えて、開催している。これまで折り鶴や、香道、茶道ほかを催してきた。次回は未定。

- ・ **海外の文化を考える**……前回までは青山学院大学ギッシュ教授による「自分発見の技術」にトライしてきた。自分自身のポジション、性格、外国に対する意識など、自分をわかり、コミュニケーションをより深く保つための技術習得だった。今後のことについては未定。

秋のコンサート

2003年秋のコンサートは、篠笛の鯉沼廣行さんによる「日本の笛を聴く」です。11月22日（土）、明治神宮内・茶室「桃林荘」で紅葉に囲まれながら、すてきなコンサートを楽しんでください。詳細は、後日お知らせします。お問い合わせとお申し込みはTEL&FAX 03-3370-6786まで。申し込みは郵便払込（00130-2-366249）後、チケットが送付されます。

会費納入のお願い

2002年度の年会費納入をお願い申し上げます。2001年度の年会費未納の方は、ぜひともご納入ください。高く評価されている当会の活動は、皆さまのご支援あってこそなのです。

郵便振替 00130-2-366249 社団法人海外と文化を交流する会

銀行振込 東京三菱銀行渋谷支店 (普) 2266599 海外と文化を交流する会

会費 10,000 円 (正会員) 5,000 円 (特別賛助会員) 3,000 円 (学生会員)

海外と文化を交流する会事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-27-6 パイビル内

TEL&FAX 03-3370-7654